

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

令和の大改修は皆様のお蔭をもちまして、庫裡

1、(先代住職が住んでいました離れの部分)と、庫裡2(玄関・台所・副住職の住居など)の改修工事が終わりました。今年はいよいよ本堂の耐震化改修工事に入ります。本堂改修に当たる細かい打ち合わせをしていますが、私たちも次第に工事をどのように進めるかを学び、本堂改修に対応することができるようになりました。今年はいよいよ皆様に進捗状況をお知らせしながら、改修工事の完成に向けて全力を挙げてまいります。本年もよろしくお願いたします。



令和の大改修 進捗状況

申し込み状況 令和4年末より檀信徒の皆様へ「全久院令和の大改修」の趣意書を配り始めました。趣意書などにもお書きしましたが、コロナ感染症、ウクライナ問題、世界経済、円安など経済状態が悪い中、寄進をお願いしなくてはならないことは、わたくし共にとりましても苦渋の決断であり、檀信徒の皆様にとりましても多大なご負担と拝察いたしますが、何とぞご理解賜り、ご協力をお願い申し上げます。

令和6年12月現在で、430軒 1億2千万円の寄付の申し出を頂戴しました。そして1億5百万延の入金を頂いております。松本市や県内外に約800軒の檀信徒の皆様がおります。お申し出はまだ半分程、目標金額の約50%です。これからも進捗状況をお知らせしながら、寄付のお願いを進めてまいりますので何卒ご協力をお願いいたします。

令和6年12月現在で、430軒 1億2千万円の寄付の申し出を頂戴しました。そして1億5百万延の入金を頂いております。松本市や県内外に約800軒の檀信徒の皆様がおります。お申し出はまだ半分程、目標金額の約50%です。これからも進捗状況をお知らせしながら、寄付のお願いを進めてまいりますので何卒ご協力をお願いいたします。

申し込み方法 第一次の勧誘では、ヤマト宅急便にて「寄進趣意書」「全久院の歴史」「申込用紙」「郵便払込取扱票」をお送りしました。寄付のお申し出がまだな檀信徒様は、もう一度内容をお読みいただき、寄付金額・納入回数など決めていただき、「寄付申込書」にご記入の上、ファックスか郵便にて全久院までお送りください。ファックス番号や全久院の住所は申込用紙の下の段に記載してあります。申込用紙を元帳簿として会計整理をいたしますので、お手数をおかけしますが宜しくお願いたします。文書が見当たらない方は再送いたしますので、その旨お申し出ください。

工事進捗状況 庫裡2の引き渡しは去年の12月21日に行われました。右の写真は皆様の通用玄関です。以前の面影を残して改修されました。玄関の奥の納屋も一緒に改修しましたので、玄関先の荷物を移動し、1月の上旬には玄関から出入りできるようになります。

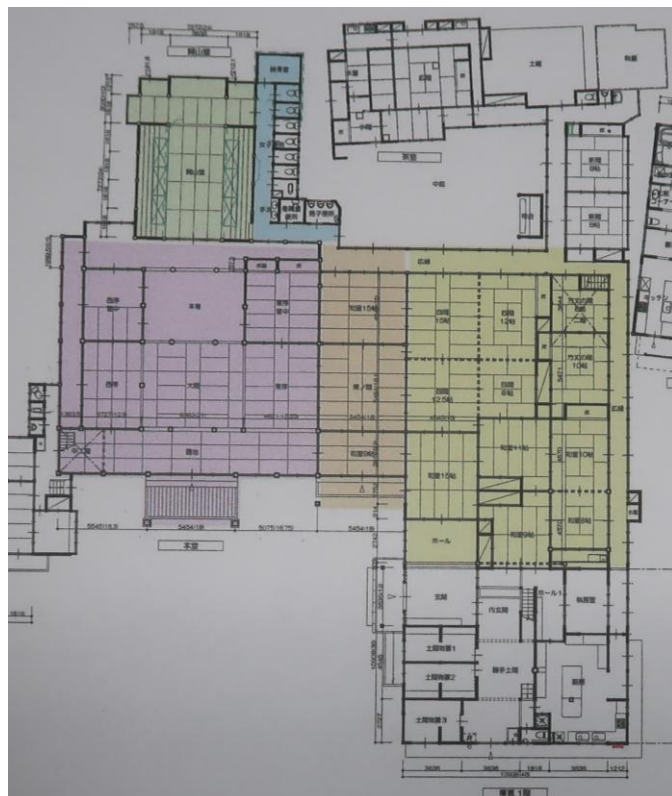
8月のお盆法要や棚経などの行事が終わってからいよいよ本堂の改修工事が始まります。令



和8年の4月ころまでには改修工事が終わる予定です。右の紫色の部分が**本堂**、緑色が**開山堂**、青色が**トイレ**、オレンジ色が**本堂と庫裡を繋ぐ部屋**、黄色が庫裡の広間になります。今回は紫・緑・青・オレンジ色の建物の改修工事になります。

8月までの期間に本堂や開山堂などに仕舞い込まれたものを点検整理します。仏像・天井の装飾品・開山堂の位牌など、業者さんをお願いし、取り外し、保存します。これらの準備を8月までに完了させます。

現在どのように耐震化させ改修を進めるか、夏の暑さに対する**冷房**の効果的な利用など、「かわかみ建築設計室」により詳細設計に入っています。その後この設計に沿って見積もりができます。工事に向けての片付けを進めながら、契約の事務手続きを進めてゆきます。皆様にはご不便をおかけすることと思いますが、なにとぞ協力お願いいたします。



全久院全景の見取り図

庫裡2工事までの中間会計報告

支出	ハシバテクノス	収入	寄付金	約	10、500万円
	工事費として		護持会	約	1、000万円
	約14、700万円		全久院	約	1、000万円
	かわかみ建築設計室		倉科住職家	約	3、400万円
	設計管理費として約				
	1、200万円				

計 約15、900万円を予定しています。(令和7年1月末日に支払いを完了します)。詳細は総代会や護持会総会の承認を得て正式に報告いたします。

工事中の寺の使用変更 法事や葬儀は広間(黄色)で行うことができます。お勝手が新しくなりましたので、飲食も以前同様に行うことができます。しかし広間とは言え本堂ほどの広さはありません。皆様の了解を得ながら会場としての使用を考えてゆきます。8月から4月までの9か月間、皆様には大変ご不便をおかけしますが、なにとぞ協力のほど宜しくお願いいたします。

後藤先生レポート 右の写真は庫裏の解体で発見された棟札です。前号にもご紹介しましたが今回は後藤先生により、より正確な解説をしていただきます。

前回の「全久院報」48号で写真紹介された棟札について、詳細報告は後藤が行うとなりましたので、今回はそれを記します。

表面は100年以上経っているので真っ黒になっていて、3か所に文字がありますが全ては読めません。真ん中に「(梵字力) 転読大般若経六百卷専祈火盜消除諸縁吉口(一字不明)」とあります。裏には以下の文が綴られています。(漢字は旧字を新字に、カタカナを平仮名に改め濁点をうち、句読点を付した)

当山庫裏再建之縁起

凡そ形ある者は必ず滅する期あり。四却三災の難は仏神も左右すること能わず。茲に明治廿九年三月十四日午前二時の刻、当山本堂北側鐘司殿の許に其際に頻々開山禪師の洪恩碑を彫せし小屋ありしに、此の小屋の一隅より祝融忽然赫形を現し猛威を振ひ、瞬時に烏有一片の灰燼に皈せしむ。後ち一週を経るの期に垂んとする頃、義勇厚き相信諸士丹魂不淺協議の結果、当国南安曇郡松川村旧觀勝院庫裏玄関の二字を譲り求め、棟梁坂巻等をして日夜怠慢なく再築の歩を進ましむ。遂に同年三月十九日を以、上棟式及転大般若を執行し、無事圓成を告るに至る。之れ実に山門の瑞慶乎。情く考ふるに去歳の一凶今歳の一吉、糾へる繩の如くなり。願は仏天善神靈變として、普く紫雲を覆ひ、永く山門の衛護を垂れ玉はんことを囀に寺門の万福を祝すと云爾

維時明治三十丁酉年三月十九日上棟式執行の日



これをみると現在改築完成間近の庫裏が、火災後どのようにして建築されたかが分かります。全久院は安達達淳（現全久院2世）の尽力によって、明治11年には青竜寺として再出発して次第に寺域も整えられていった最中、明治29年3月14日に本堂の北にあった鐘司堂脇にあった開山栴崖奕堂（せんがいえきどう）禪師の恩恵を記した碑がある小屋から出火して、瞬く間に寺の建物を焼き尽くしました。すると檀家信徒が協議一致して再興に動き出し、現松川村の觀勝院（大和山觀勝院 現在の觀松院とは別寺）が廃寺になっていたため、そこから庫裏と玄関の建物を譲り受け、棟梁は坂巻儀平（国重文旧松本区裁判所庁舎建築の棟梁にもなる）らが務めて、1年後には庫裏の建物を完成させました。上棟式は3月19日に行われ、合わせて大般若經の転読が行われました。この棟札の最後は「寺門の万福を祝す」と結ばれています。

廃仏毀釈の廃寺から立ち上がりつつあったときに、突然の火災によって建物を失いながらも檀信徒が一丸となって復興に取り組み、庫裏を再建した様子がわかります。現在令和の改修工事が進んでいます。明治時代の檀信徒が団結して火災の困難から寺を立ち上げなおした心意気に感じ、令和の檀信徒も力を結集してこの事業を無事完遂させましょう。

（後藤 芳孝）

お寺では、全久院の歴史をたどるための史資料を探しています。これは関係しそうだと思うものがありませんら、ご一報ください。

全久院の集い

坐禅会 ・ ・ 第七十則「進山問性（しんざんもんしょう）」 ・

この則の中に「つなげる駒 伏せる鼠」というたとえ話があります。この句は寶鏡三昧（ほうきょうざんまい）という經文に載っています。春の駒が杭に繋がれている。一見穏やかに見えるが腹の底は草を食いたくて仕様がな。鼠は御供餅を喰いたいが、そこに猫がいて仕方なくおとなしくしている。というたとえ話です。上面はおとなしいが腹の中では煩惱が騒いでいる。自分自身に置き換えてみると、悟ったような風をして穏やかな顔をしているが、朝から晩まで煩惱は収まらない、という心境を言っています。

禅というと無心の心境で坐しますが、なかなか無心で坐することはできません。「無心猶お（なお）隔だつ（へだつ）一重の関（ひとえのかん）」という教えがあります。無心といっても無心という関門があって、なかなか無心という処へは行き着かない。その行き着けない無心という関門を通り過ぎることによって、自分の中にある煩惱から解き放たれ、自由自在という関門にたどり着くことができます。

私たちは常に自分が幸せになりたい、自分を認めて欲しいという思いがあり、その思いが煩惱となってそれに縛られてしまいます。「自分が！」という思いが強くなりすぎて周りの人々から

浮き出してしまう、孤立してしまいます。そして社会の中での自分の存在が見えなくなり、思い悩んでしまいます。「自分が！」という思いを無心に変えることで、決して簡単なことではありませんが、自由自在な心をつかむことができます。

座禅という道場での修業は仏教の深遠な哲学と考えがちですが、実は自分の今の生活の仕方に様々なヒントを与えてくれるものなのです。仏教の複雑な教えを私たちの日々の生活に活かすことを、皆様にお伝えできたらと思います。

茶道部 全久院即心会茶会

昨年11月10日、即心会茶会を開催しました。まだまだ感染症の影響が残っていること、庫裡の工事中でお勝手が使えないことなどにより、お客様をお招きしてのお茶会を開くことはできませんでした。社中のみで、日頃できない複雑な点前の稽古、「茶通（さつう）」、薄茶2席を行いました。若い方を中心に点前をしてもらいました。日ごろ経験したことのない緊張感を克服して「点前が終わってホッとしました」と笑顔を浮かべてくれました。



最近の稽古事は人口減少が甚だしく、表千家も例外ではありませんが、全久院は現在40人ほどの方が稽古を続けてくれています。稽古に来てくれる皆さんの熱意に負けないよう頑張ります。皆さんの力を借りながら日本の伝統文化継承に尽力したいと考えています。

今年は8月から本堂の改修工事が始まりますので、**6月8日（日）に茶会を行う予定**です。120年ほど全久院を支えてきた本堂への感謝と思い、「あばね、またね茶会」と称して**薄茶2席と点心席、茶券代2500円にて、檀信徒の皆様を限定20人程ご招待**したいと考えています。ご希望の方はぜひ電話にてお申込みください。

大黒コーナ

ドニゼッティ作曲 オペラ 『ランメルモールのルチア』公演

「オペラを楽しむ会第12回公演実行委員会」主催

実行委員長： テレビ松本ケーブルビジョン代表取締役会長 佐藤浩市

公演日時 : 2025年4月19日（土）・20日（日）14時～16時半、ダブルキャストで2公演
大黒 倉科京子は20日に出演します。

会場 : まつもと市民芸術館主ホール

合唱指導者 : 倉科京子、澤木和彦、上條力秀、青木素子

総監督 : 澤木和彦・ 指揮者 : 上條力秀

オーケストラ : オペラを楽しむ会特別編成オーケストラ（約22人）

聴きどころ オペラは、人間の感情のほとばしり！！その、生身の声を伝えたい。マイクを使わない本物の声、オーケストラ、ダンス、助演、舞台、すべての要素の饗宴をお楽しみください。この演目はドニゼッティが書いたオペラの代表作です。また、ヒロインが恋人と引き裂かれて精神に追い込まれ、死んでしまうという、〈狂乱オペラ〉の代表作でもあります。

悲劇の頂点となる〈狂乱の場〉「彼の優しい声が/この世の苦い涙を」は、敵対関係にある家の当主と恋仲のルチアが、意に添わぬ結婚をさせられ、新婚初夜に夫を刺し殺してしまった時の曲です。喜怒哀楽の情感にあふれ、音域も広く、とても高い音で、高度なテクニックを要求される、美しい曲です。恋の喜び「あたりは沈黙に閉ざされて/この上ない情熱に心奪われた時」

「吐息はそよ風に乗って」、それを反対された時の苦しい胸の内「涙にくれ苦悩にやつれ/もしもお前が私を裏切るのなら」、賑やかなお祝いの歌「貴方のために皆喜び」、ルチーアの恋人エドガルド（テノール）の名アリア「我祖先の墓よ/この世に別れを告げよう/神のもとへと翼を広げた君よ」など、観どころ、聴きどころ満載でございます。どうかお楽しみに。美しい曲に浸り、完成を目指す喜びに包まれてメンバー一同稽古に励んでいます。

一昨年の12月からソリスト、去年の1月から合唱の音楽稽古がそれぞれ月2回のペースで始まり、9月にはソリストと合唱の合同音楽稽古が始まり、10月下旬に立稽古が始まり、現在感情の表現に乗った息で歌い、それぞれの役の動きを考え、追及している段階まで来ました。

練習風景 全久院の大黒の合唱指導はかなり好評です。ご法事の時に知り合いました檀家様もお一人、合唱メンバーとして今回初めて参加していただきました。とても楽しいと感想をいただいています。私もそれをお聞きしまして嬉しいかぎりです。



自然災害、実際の生活などいろいろと厳しい現実があり毎日一生懸命私も含めて皆様お過ごしのことと存じます。このような文化的な活動は決して無駄ではなくて、気持ちの豊かさや楽しみ、生きる張りを持つことができ、人とも繋がっていけるものですね。

皆さん、体幹を使って、感情を息に乗せて歌っていくベルカント唱法をだんだん身体で感じながら充実した声で歌えるようになってきています。音域も広がって気持ちよく声を出せると、本番へと前向きに楽しく頑張っています。

オーケストラのメンバーともこれから合わせていきますが、同じ方向を向き音楽を創っていくのが楽しみです。ダンスも新年くらいから合わせていきます。いつも向山ダンスアートアカデミーの皆様には場面を盛り上げていただいています。舞台も、美しい写真や照明をJUKEさんにご協力していただき、工夫していきます。衣装は、衣装部で工夫して作ったり、ネットで探して安く購入したり、生地を見つけ縫製をお願いしたりしています。時代考証、色味など検討しつつ、舞台全体のバランスを考えながらデザイン色味を決めていきます。

今まで述べさせていただきました通り、オペラを完成する段階で、すべてに置いて、一個一個創り上げてまとめていく作業は欠かせません。音楽から実際の小道具、大道具までオペラ公演に関係するものすべてを完成させて創造していくという手間はとても大変ですが、完成した時の喜びを想像しながら創造していきたいと思えます。そして、それを鑑賞し感動して下さるお客様の満足されるお顔を見られる舞台目指して、頑張っていきたいと思えます。

是非お越しください 今回はソリストの希望者が多くて2公演としました。大黒 倉科京子の出演は20日の公演です。皆様、松本発信のプロもアマも一緒に創り上げる舞台です。皆様に楽しんでいただける舞台を作れるように、メンバー一丸となって、頑張っていますので是非ご来場ください。

掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

下記の予定は変更される場合もありますので、参加の際は日時を寺に確認の上お越しください

・・・ 檀信徒護持会新年総会 ...

1月18日(土) 4時より全久院で開催します。4時より護持会総会となり、皆さまから頂戴している護持会費の会計報告、全久院令和の大改修の経過報告を致します。改修工事は庫裡2

(計画上の名前、玄関やお勝手の建物を指します)が完成しました。次はいよいよ本堂の計画が具体化してきますので、その進捗状況を報告いたします。4時40分より本堂にてお参り、終わって皆さまにお弁当をお配りし、以前のように手作りの「けんちん汁」をお出しして皆様と会食をしたいと存じます。なお、マスク着用、熱のある方は出席しない、などの対応をお願いいたします。参加希望の方は1月13日(月)までに電話でご連絡ください。

．．． **観音講** ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様へのお勤め、10時45分からご詠歌、11時半から大黒の指導で親しみやすい曲の合唱、12時より茶話会という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気寄りが良く60代から80代の方が元気に集まって来ます。住職の役職の都合で日程の変更がありますので電話などで日程の確認をお願いします。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． **座禅会** ．．．

2月15日(土)・3月15日(土)・4月19日(土)・5月17日(土)・6月21日(土)・7月19日(土)・9月13日(土)以上が上半期の日程です。基本的には第3土曜日夕方4時集合、4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみるのが是非必要と思います。最近では現実の生き方に、どのように禅の考え方が活かされるのか、というような話にも発展してきています。参加費は1000円です。ぜひお越しください。

．．． **ご詠歌の会** ．．．

2月12日(水)・3月12日(水)・4月9日(水)14時30分・5月14日(水)・6月11日(水)・7月9日(水)・9月10日(水) 第2水曜日、午前10時半より12時まで、白板東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。4月は松本仏教和合会の托鉢が午前中にあるため午後の開催になります。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や県大会、全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。なお参加費用1回2000円をお願いいたします。

．．． **歌の会「花かんざし」** ．．．

1月15日(水)、1月29日(水)・2月5日(水)・2月19日(水)・3月5日(水)・3月19日(水)・4月2日(水)・4月16日(水)・5月7日(水)・5月21日(水)・6月4日(水)・6月18日(水)・7月2日(水)・7月16日(水)・8月6日(水)・8月20日(水) 第1・第3水曜日に開催します。大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。期日は基本的には毎月の第1、第3水曜日です。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと好評です。時間は10時から12時。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。上記の日程には変更する場合がありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。

．．． **ホームページもご覧ください** ．．．

<https://zenkyuin.or.jp/>